

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年六月度 入選句（投稿総数一千八百五句・一般投句数六百三十五句）

特選

疑ひが解けてすつきり百日紅

大垣市

不破 英雄

人生いろいろありますね。楽しいことばかりだと嬉しいのですが、誰かに疑いをかけられた時つてつらいです。よね。時には月日が解決してくれることもありませんが、早くすつきりしたいですね。

ところでこの句の季語は「百日紅」です。「疑ひが解けてすつきり」と「百日紅」の取り合わせの句ですが、共に「つきすぎず、離れすぎず」が大切ですね。疑いが解けるには、やはり日がかかりますね。「百日紅」の花は、百日近く咲いているようです。また、幹は猿も滑るほど「つるん」としています。すつきりした気持ちの表現にも繋がるようですね。

書架の本積まれしままや走り梅雨

大垣市

森川 きよ子

「書架の本積まれしまま」までの内容に切れ字「や」が使われています。ここまでの内容を作者は読者の想像にまかせているのです。本来は書架にあるべき本が積んである。何冊かが横積みになされているのです。ここまで読んで、皆さんは何を想像するのでしょうか。「忙しかったのかな」「本がたくさんありすぎて本棚に入らなかったのかな」など想像を膨らませて「走り梅雨」ができてきます。走り梅雨は、梅雨の入る前のぐずついた天気です。梅雨に入ったら、たくさんの本を読むのでしょうか。そんな作者の気持ちだが、季語に含まれているのです。

扁額の濃き墨あとや梅雨湿り

岐阜県岐阜市

小湊 順子

座敷なのでしょうか。額が掲げているのですが、濃い墨で書いてある文字が滲んでいるのでしょうか。「梅雨湿り」の季語が、墨の滲みを表しているのでしょうか。読み手は「季語」によってその情景を想像し、作者が何を伝えようとしているのか読み取ることが大切ですね。皆さんは、扁額の文字をどのように感じ取られたでしょうか。

秀逸

朝掘りの太き筍 鰯のあと

大垣市

中尾 恭子

薔薇の棘刺さるが如き 反抗期

三重県鈴鹿市

松井 政典

明易や結末見せぬ 夢ばかり

養老郡養老町

田中 紫香

伊吹風吐かせ 昼みぬ 鯉 幟

大垣市

多賀 照子

麦笛の鳴りて 輝く 童の眼

不破郡垂井町

児玉 信子

糠雨になんじやもんじやの花 煙る

岐阜県岐阜市

堀江 美州

紫は 明治の色や 鉄線花

福井県福井市

三ツ山 しげ子

雨上がりみみずは 路地に迷ひけり

大垣市

谷 彩虹

小さき鎌 大きく構へ 仔蠟 螂

大垣市

大西 誠一

電線に 指定席なし 鴉の子

大垣市

久富 キヌエ

入選

葉桜となりて麩城の聳へたつ
 術後の目山なみの色夏きたる
 さえずりに誘われ動く望遠鏡
 天空を舞う鯉幟今日の風
 千年の古墳の目覚め風光る
 むらさきの夕べ静かに杜若
 大垣の枡で掬わん若葉風
 湧水の珠なす初夏や石佛
 篝火を長良にこぼし鶉飼船
 田を植ゑて水の輪中となりけり

大垣市 渡辺 一光
 大垣市 平野 きぬよ
 大垣市 安田 むつこ
 大垣市 浅野 亨
 大垣市 松岡 千代
 養老郡養老町 田中 秀子
 埼玉県川口市 鶴谷 白雪
 大垣市 横井 正明
 不破郡垂井町 西垣 和志
 大垣市 村田 通夫

入選

投げ釣りや地球を釣りし四月馬鹿
 能笛のひと吹き千里麦の秋
 菖蒲湯につかりて恙が無き一日
 もふ駄目と伸ばしをる手やさくらんぼ
 少年の風切る速さ夏来る
 祭笛とどき病臥の指動く
 廃屋の崩るるままに白ぼたん
 あぢさゐに顔寄せて行く下校の子
 住みなれし床の軋めき梅雨めきぬ
 雨音の途絶え芒種の朝ぼらけ

大垣市 服部 聖治
 不破郡垂井町 江崎 真一
 大垣市 川瀬 幸子
 安八郡輪之内町 野村 照子
 大垣市 町野 眞佐子
 大垣市 末守 節子
 大垣市 鶴田 信子
 大垣市 神野 武彦
 大垣市 尾関 逸子
 京都府城陽市 れも ん

選者吟

草刈機止むとき天地息を吐く

永山